

保育が「カネ次第」に

親のつらさ、さらに増す

子育て新システム 東京で集会

政府が来年の通常国会での法案成立を目指す「子ども・子育て新システム」に反対の声をあげようとする2日、千代田区内で「子どもの笑顔と親の安心を守る東京集会」が開かれた。保育所や幼稚園の職員、保護者ら約770人が参加。パネルディスカッションやリレートークでは、保育を市場にゆだねる新システムで、子育てがさらにつらいものになるという指摘が相次ぎました。

パネルディスカッション 祐一氏、都内公立保育園の園長、幼稚園教諭の3氏が、熊弘子氏がコーディネータ。新システムの問題点についてを務め、帝京大学の村山 祐一氏、都内公立保育園の園長、幼稚園教諭の3氏が、熊弘子氏がコーディネータ。新システムの問題点についてを務め、帝京大学の村山



子育て新システムの問題点を話し合ったパネルディスカッション=2日、千代田区

猪熊氏は、子育て雑誌を編集している経験から、アンケートで87%の母親が「子育てががつらい」と感じていることなど、現代の子育ての実態を紹介。幼稚園と保育園が一体化することで早期教育が活発になるのではといった期待が、親たちの新システムへの支持につながっていると指摘したうえで、新システムでも待機児は解消されず、園で提供されるサービスが「お金次第」になるなど、さらに親たちの子育てがつらくなる

と批判しました。村山氏は、新システムでは、自治体の保育実施責任がなくなり、保育の産業化が進んで制度が大本から変わると説明。08年に起きたハッピースマイルのような保育園の倒産が起きても、「いまは行政が責任を持つて代替を探す、新システムでは自治体の責任がなくなる」と述べ、「待機児解消を求める親の期待にこたえるには、認可保育園を増やすことが大切だ」と語りました。

練馬区の区立保育園長は、「政府は親が園を自由に選ぶ仕組みになるというが、こんなに待機児が多い

ました。八王子市の幼稚園の教諭は、合宿などの行事を通して、子どもの自立を親とて、もに考えていることなど園の活動を紹介。「新システムで幼稚園もサービス産業になり、保育の柱である行なうに、当日だけ楽しむイベントに変質してしまう」と心配を語りました。株式会社経営する保育園でパワハラや職場はすしを受け、会社に地位確認の仮処分を提訴した保育士や、「赤ちゃんの急死を考える会」メンバーも発言。1歳の子を抱えて園を回り、「直接契約」で入園先を探る母親の姿を通して新システムで保育がどうなるかを考える寸劇も披露されました。新システムの問題点を学習する場をあげ、国会議員署名などの運動を進めようというアピールを採択しました。